

【国語】
2025年度一般選抜 入試対策講座資料

二 次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。（配点五十五点）

このテキストは、著作権の関係により掲載できません。

（杉田敦『政治的思考』による）

〔問題〕

（一） 空欄ア～ウに入るもつとも適切な漢字一字を、解答欄に記入しなさい。ただし、同じ漢字は入りません。なお、空欄イは二箇所ありますが、二箇所とも同じ漢字が入ります。〔解答用紙記述〕

（二） 空欄Ⅰ～Ⅳに入るもつとも適切な漢字一字を、解答欄に記入し、四字熟語を完成させなさい。ただし、同じ漢字は入りません。〔解答用紙記述〕

（三） 空欄P～Sに入るもつとも適切な語を、次のa～pの中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、一つの語は一箇所にしか入りません。〔解答用紙マーク〕

- | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| a 特権 | b 抵触 | c 一般 | d 充足 | e 空洞 | f 実体 | g 合理 | h 形式 |
| i 遊戯 | j 脱俗 | k 喪失 | l 存在 | m 違和 | n 穩健 | o 封建 | p 肥大 |

（四） 空欄X・Yに入るもつとも適切な語を、次のa～hの中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、一つの語は一箇所にしか入りません。〔解答用紙マーク〕

- | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|
| a 矛盾 | b 自壊 | c 後退 | d 共振 | e 再会 | f 短絡 | g 転倒 | h 敵対 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|

三 次の文章は、『紫式部日記』の一場面です。宮中から里下がりをした作者が、あれこれ物思いにふける様子が描かれています。これを読んで、後の問題に答えなさい。(配点三十五点)

風の涼しき夕暮、聞きよからぬひとり琴をかき鳴らしては、「嘆き加はる」と聞き知る人やあらむと、ゆゆしくなどおぼえはべるこそ、をこにもあはれにもはべりけれ。さるは、あやしう黒みすすけたる曹司¹に、箏^{そう}の琴^{こと}、和琴^{わごん}、調べながら、心に入れて、「雨降る日、琴柱^{ことぢ}倒せ」なども言ひはべらぬままに、塵^{ちり}つもりて、寄せ立てたりし厨子^aと柱とののはざまに首さし入れつつ、琵琶も左右に立ててはべり。大きな厨子^{くし}よろひに、ひまもなく積み立てはべるもの、一つには古歌^{ふるうた}、物語のえもいはず虫の巢になりたる、むつかしく這^はひ散れば、開けて見る人もはべらず。片つ方に書^かども、わざと置き重ねし人もはべらずなりにし後、手ふるる人もことになし。それらを、つれづれせめてあまりぬるとき、一つ二つ引き出^いでて見はべるを、女房集まりて、「御前はかくおはすれば、御幸ひはすくなきなり」「なでふ女^{まな}か真名書^{まながみ}は読む。むかしは経読^{きやうどく}むを」X 人は制しき」と、しりう^うち言ふを聞きはべるにも、「物忌みける人の、行末いのち長かめるよしども、見えぬ例^{れい}なり」と、言はまほしくはべれど、思ひくまなきやうなり。ことはたさもあり。

よろづのこと、人によりてこととなり。ほこりにきらきらしく、心地よげに見ゆる人あり。よろづつれづれなる人の、まぎることなきままに、古き反古^{はこ}ひきさがし、行ひがちに、口ひひらかし、数珠の音高きなど、いと心づきなく見ゆるわざなりと思ひY て、心^Aにまかせつべきことをさへ、ただわが使ふ人の目に憚^{はば}り、心につつむ。まして人の中にまじりては、言はまほしきこともはべれど、いでやと思はえ、心得まじき人には、言ひて益^{やく}なかるべし。ものもどきうちし^c、われはと思へる人の前^Bにては、うるさければ、もの言ふことももの憂くはべり。ことにいとしも、もののかたがた得たる人はかたし。ただ、わが心の立てつるすぢをとらへて、人をばなきになすなめり。

それ、心よりほかのわが面影を恥づと見れど、えさらずさし向かひまじりたることだにあり。しかじかさへもどかれじと、恥づかしきにはあらねど、むつかしと思ひて、ほけ痴^ちれたる人にいとどなり果ててはべれば、「かうは推しはからざりき」「いとと、のたまはする折々はべり。

(『紫式部日記』による)

(注) 嘆き加はるは『古今和歌集』所収の良岑宗貞の詠歌「わび人の住むべき宿と見るなへに嘆き加はる琴の音ぞする」による表現。 箏の琴は中国伝来の十三絃^{げん}の琴。 和琴は日本古来の六絃^{わごん}の琴。 琴柱倒せは琴柱は、琴の胴の上に立てて絃をのせ、音の高低を調節する道具。雨の日は湿気で絃がゆるむので、琴柱を外した。 厨子置き戸棚。 首は琵琶の柄から先の部分。 よろひは調度などを数える単位。 置き重ねし人は作者の亡夫、藤原宣孝。 しりうは陰口。 物忌みける人はいろいろと縁起をかついだ人。 思ひくまなきは思いやがない。 口ひひらかしは口をしきりに動かし。 わが心の立てつるすぢは自分で勝手に決めた基準。 ほけ痴れたる人はもうろくし、愚かになった人。 そばそはしきよそよそしい。 宮の御前は作者の仕える、中宮彰子。

〔問題〕

(一) 傍線部1・2の漢字の読みを、平仮名の現代仮名遣いで、それぞれ解答欄に記入しなさい。ただし2は「れい」以外の読みを答えること。〔解答用紙記述〕

(二) 傍線部A～Eの本文中の意味としてもっとも適切なものを、それぞれ後の1～4の中から一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙①〕

A 心にまかせつべきことをさへ

- 1 相手の気持ちにしたがう方が良いことも
- 2 思い通りにしてしまつてよいことまでも
- 3 自分のこだわりを捨てるべきことすらも
- 4 思い浮かべることができただけでも

B うるさければ

- 1 わずらわしいので
- 2 おそれおおいので
- 3 やかましいので
- 4 しかたないので

C えさらず

- 1 やむをえず
- 2 そうではなく
- 3 いいようもなく
- 4 得るものもなく

D もどかれじ

- 1 議論したくない
- 2 他人に合わせられない
- 3 張り合わないようにしよう
- 4 批判されないようにしよう

E あやしきまでおいらかに

- 1 身をやつすほど困惑して
- 2 不思議なほどおっとりとして
- 3 奇妙だと感じられるほど自由で
- 4 こちらが心配になるほど真面目で

(三) 二重傍線部a～dのうち、文法的意味が異なるものを一つ選んで、解答欄にマークしなさい。〔解答用紙②〕

(四) 波線部ア～ウの「こと」を漢字にしたとき、もっとも適切な表記を、次のa～dの中からそれぞれ一つ選んで、解答欄にマークしなさい。ただし、一つの選択肢は一度しか使えません。〔解答用紙③〕

a 異 b 事 c 琴 d 言